



里山農園 白土山洞穴への周遊通路完成 1000m

新年あけましておめでとうございます

旧年はコロナ感染やウクライナ侵攻戦争、それに伴う物価高騰などみんなが願う平和な暮らしに背く不安が引き起こされました。私たち里山の会も高齢化などでの退会者が続き 25 年間で最小の会員数に陥りました。そして活動推進の主力メンバーも年を重ね行動力に陰りがみられるようになりました。

これらの困難要因を乗り越えて皆さんは毎週の事務局会議を中心に奮闘を重ね、世界遺産とされている嵐山（桂川）に竹蛇籠の設置を実現できました。そして 11 月 28 日の京都新聞朝刊の梵語で紹介されるなどの報道がされました。同時期に長年の夢であった里山農園に白土山洞穴への周遊通路を完成させる等、これまで手が付けられなかった計画を成功させました。

新年早々には竹ペンについて関西連合さんに説明の機会が設けられるなど新しい計画が予定されています。今年は新しい広報（フェイスブック等）の活用を利用するなど改善を進めるべきでしょう。広く活動を紹介する機会を取り入れ会員の増加に対応したいものです。

今年は事務所問題、新役員体制の確立など難題が目前に迫っております。会員皆様の積極的な改善への提案のため事務局会議にご参加いただきましてご意見を頂戴出来ますようお願いいたします。改善改良の推進、新事業の展開には苦労苦心が伴いますがこれまで積み上げてきた苦労と信用信頼をよりどころに里山農園や木津川での活動、講演会や地域説明会、それにヤマトサンショウウオ・オオムラサキ、そして復元を目指しているイタセンパラなどの生き物の調査観察活動に旧年以上のご協力をお願い申し上げます。私たちは結成以来 25 年間スローガンとして「自然を大切にする仲間の輪を大きくする」を掲げてまいりました「この原点に立ち返り仲間を多く迎ええられるように困難を乗り越えてゆく 2023 年にしましょう。」と強く呼びかけ新年のご挨拶とさせていただきます。

2023 年 元旦 特定非営利活動法人 やましろ里山の会

2023 年の正月は気候が厳しい予報の中、温暖で一時雨がありました。皆様はいかがお過ごしをされたでしょうか。私は寝正月と決め込み元旦は週刊ニュース 962 号の編集に取り組みました。そして午前中は大晦日の夕暮れにフェイスブックの文章を書き込むところまで指導いただいたのを復習しました。写真も追加できるところまで進みましたが、自分のものにできませんでした。2 日目も練習しましたがまだ不十分で思うようになりませんでした。三度花岡様に連絡してご指導を頂きました。まだ自信がなく何回か試行を繰り返さなくては駄目だと思っています。正月 3 ケ日もあつという間に過ぎまして新年初顔合わせの事務局会議には大村理事長を筆頭におなじみの顔が出そろいました。それぞれ新年の挨拶を交わし、二日後の七草摘みの準備について打ち合わせを行いました。ほどよく出揃ったところで新年の抱負を述べあいました。

5日の午後には植物関係の皆さんが事前に里山農園で七草の状況を調べていただきます。6日当日お越しになる皆さんに探し回って案内するのでは時間の無駄なので、あり場所を事前に知っておくことが能率よく進められるだろうということです。また青竹でお椀と箸を用意したいと思います。募集制限まで余裕があります。腹話術の 三山木亭谷野上介さんや皿回しの八幡亭黄金虫さんは来場者を歓迎しようと熱が入った準備をしてくださっているようです。お屠蘇や、山椒・大黃などの漢方で乾杯の後、鷹と姫の衣装に飾って七草を摘みましょう、そして洗ってみんなの囃子歌に調子を合わせ刻んで粥を仕上げ、昔をしのびながら、正月のご馳走で頑張ったおなかを休める為に粥を楽しみましょう。詳細は <http://www.yamashiro.npo-ip.net/> をご覧ください。




セリ ナズナ ゴギョウ ハコベラ ホトケナゾメ スズナ スズシロ

七草摘みと七草粥を楽しもう

2023年1月6日(金)

プログラム

9時 スタッフ集合

10時 菩提寺小学校集合

10時15分 開会挨拶

自己紹介

乾林

10時30分 七草摘み

11時15分 料理

11時35分 野宴参入

11時45分 七草かば試食

12時10分 茶会

12時30分 閉会

12時50分 集合写真
散会

高木文子・中嶋信雄 乾林 乾林寺家へ挨拶

高利松 市山町土 雄英の宮 都村 公家村

今日の取組の意義と目的

自然を大切にすると同時に職を人々にくらせる農業

佐田・成島・竜崎 前年の感想

お昼飯 その日付い

七草摘みに参りて

現場で七草の説明

まちがいやいいもの

本売い 別み食の日 晴子歌

高木水亭寺野上先生

八幡寺養生会

いざい

みんなでお祈り

五山の会よりフィラソンのゼー・熊海

自由参加 白山洞窟前後 (30分~60分) 随分あり

七種を刻むときの 囃子言葉

みんなでお祈り人をお慰める

七種ナズナ

唐土の鳥が 日本に

渡らぬ先に

あわせて ばーたばた




正月にいいい食事で食卓がかかっているおなかに一休み

休憩をさせるために七草かゆで命とれを持ちましよう

新年正月 3 日は市文化協会の甘南備登山が行われました。この登り道に一息つく頃左の大きな谷に真赤な花のような実をつけた大木に出会います。これがタマミズキで甘南備山におよそ 20 本生育しています。会誌里山の自然 4 号（1998 年 4 月）の表紙の写真に使われています。

●小川芳也さんの松江通信 No. 14

あけましておめでとうございます。この年末年始はクリスマス前の寒波を除いて天気には恵まれた穏やかな日々でした。皆さまにとって昨年以上に素晴らしい1年になりますように祈念しております。

さて、先週は斐伊川上流部における平均的な流速を求めましたので、今週は木津川の平均的な流速を求めたいと思います。宍道湖から八本杉地点と斐伊川と大馬木川の合流点の距離と同地点を大阪湾との合流付近から求めると、淀川と天の川の合流点付近（距離は約 26.9km、標高約 8.0m）と山城大橋のやや下流付近（距離は約 59.7km、標高約 28.0m）、河床こう配は、約 $1/1640$ となります。その他の条件を同じと仮定すると、 $v=1/0.02 \times 1.923^{(2/3)} \times (1/1640)^{(1/2)}=1.9093\text{m/s}$ と流れの速さは1秒間に約 1.9m進む大きさになります。時速で表現すると 6.8km/時間となりますのでやや早歩きの時に受ける風の強さぐらいをイメージしてもらえたらと思います。この続きは次回に……

●太田敏之さんの小笠原旅行 No. 5 おがさわら丸

小笠原へは、東京の竹芝桟橋から「おがさわら丸」という船で、24時間かけて行きます。ですから船内で3度の食事を行き帰りにすることになります。おがさわら丸は11,035トン、全長150メートル、旅客894人という船で、2階から7階まで客室があります。11月26日の乗客は299人で、ちょうど定員の3分の1ということになります。私は特2等寝台というクラスで、5階の10人程度の部屋になりますが、カーテンで仕切るとほぼ個室状態になり、テレビが付いています。おがさわら丸は私が今まで乗った一番大きな船で、揺れないかなと思いましたが外海では風も強く少し揺れていました。今回は一人旅でしたが、女房を連れて行っていたら文句タラタラだったと思います。

東京湾を出ると、テレビは館内放送とBSだけになります。またBSも消灯時間は映らなくなり、深夜の大相撲の取り組み結果は見ることはできませんでした。電話も、伊豆七島に近づいた時以外は全く通じませんので、インターネットも20時間程度遮断状態になります。ですから大相撲11月場所の14日目の結果は、日曜日宿舎に着いてやっと知ることができました。でも、サッカーのワールドカップのビデオはNHK BSで結構楽しみました。小笠原海運ではおがさわら丸の往復と宿3泊分がパックになった、「おが丸パック」というのを出しており私もそれを利用しました。私が使ったのは安い宿でしたが、それでも沖縄旅行に2回分くらいの出費になりました。

おが丸パックのオプションで、着いた当日は半日のバスでの島内観光、最終日の午前中にクルーズ船による半日観光を追加しました。本当はクルーズ船での1日観光をしたかったのですが満員ということでした。